

地域の中核病院を目指すべき！！

市立加西病院のあり方検討委員会を開催



▲長委員長



▲小山田委員



▲綾城委員



▲福元委員

近年、全国の自治体病院の経営状態は大変厳しく、医師確保にも困難を極めています。公立病院は全国に約970ありますが、その7割以上が赤字という状況です。

市立加西病院は、安全で良質の地域医療サービスを継続的に提供していくために、経営基盤の安定化を喫緊の課題に、市唯一の急性疾患を治療できる病院として市民のニーズに応えてきました。

現在、病院経営の健全化に向けて、外部コンサルの指導を受けたり、病院内にプロジェクトチームを立ち上げ、病院の経営改革に努めています。

院長はじめ病院内部の努力もあって、明日にも病院が崩壊するような重篤な状態ではありませんが、自治体病院を取り巻く急激な環境の変化に対応し、持続可能な経営体として再構築するため、この度、全国レベルで病院の経営改革に取り組まれている方々のお力をお借りして、市立加西病院のあり方を検討することにしました。

第1回目の委員会は、11月16日（金）、市役所多目的ホールで行われました。今月号では、その主な意見を抜粋して紹介します。

若い医師が魅力を感じる病院

加西病院は自治体病院の中でも模範的な病院。年間6、7人もの研修医が来るということは、医療内容と指導がいい。大学病院の医学部に匹敵するぐらいの臨床のマッチング率。病院が生き残れるかどうかは臨床研修医が来るかどうかにかかっている。ただ、経営が少し悪い。医業収支比率が96%、職員給与が医療収入に対して46%と良好。しっかりした基準による市の一般会計からの繰り入れが少ないのが、経常収支が赤字の原因。

実績のある発展する病院を中核病院に

仮に2病院が1つになっても最低500床ぐらいの病院。1床あたり5千万円だと250億円、高度医療を取り入れると300億円、これを北播磨5市1町が負担できるのか。実体の無いところに新しい自治体病院を作るとは反対。実績のある、これから発展しつつある病院を中核病院にしない限り空中分解する。願わくばこの加西病院が何年か先

には、本当の意味での地域の中核病院になるような形で持って行ってほしい。

今何をやるべきかを考える

加西病院が無くなったとしたら、本当に加西市民の健康を守るかを考える。今のまま存続しようとした時に、数年後やって行けるのかを検証しなければならない。新しい中核病院を設立するのはいいが、今何をやるべきかをもちっと真剣に病院も議会も首長も考えてほしい。それは今日からできること。今ある自治体病院の中で連携をやる。医者が少なくなっているため機能分担をやる、そのネットワークを作ること。選択と集中も改革の旗印。

医師の派遣をできる力を

地域に不足している医療を与えるのが公的病院の使命。中核病院になるのであれば、医師を派遣するぐらいの力を持たなくては行けない。

地域の住民が病院に何を求めているのか、病院は住民に対して何に応えられるのかを明確にすることが必要。

医師確保のために

神戸大学関連病院として医師のローテーションの場を提供しつつ医師の人事を受けるといった仕組み無くしては、加西病院が医師を確保し医療の質を保ち医師の働き甲斐のある職場を作っていくということは困難。若い研修医たちが働いている環境は病院の大きな喜び。医師確保に特に重要なことは、今いる医師たちを引き止めること。

上記のように委員の皆様からは、市立加西病院を高く評価する発言が相次ぎました。

行政、議会、病院、市民全ての力を結集して、今私たちが何をやるべきかを考えていかなければなりません。

次回（1月17日（木））は、経営改善・形態について協議する予定です。是非傍聴にお越しください。

外部委員（敬称略）	
総務省公立病院改革懇談会 座長	長 隆
社団法人全国自治体病院協議会 会長	小山田 恵
鹿児島県立病院 事業管理者	福元 俊孝
泉大津市立病院 事務局長	綾城 重幸

市立加西病院 「マタニティセンター」オープン！

▶特別室。広々とした空間に、テレビが2台あるなどちょっとしたシティホテルのようです。



▶一般個室。部屋ごとにイメージや家具の色合いもちがうため、自分の好みのお部屋を選べます。



昨年5月末に産婦人科病棟を一旦閉鎖し、今回「マタニティセンター」としてリニューアルし、加西病院で分娩が再開しました。

分娩直後から母子が密着して過ごすカンガルーケアを目指し、母乳を大切に赤ちゃんとやさしい病院というコンセプトのもと、東病棟3階を産科の単独病棟とし、個室6部屋に改装。お母さんと赤ちゃんが同じ部屋に入院する母子同室対応型になりました。全個室シャワー・トイレ完備、特別室ではお風呂があり、家族の方も宿泊することができます。部屋それぞれに内装・調度品を変えて、まるでホテルのような部屋になっています。また、新生児室は完全リニューアルし、マタニティホールができました。ここでは、毎週水曜日の午後、マタニティフィットネスやマタニティヨガ、妊婦教室や両親学級、産褥体操、1年後のお誕生日会を行います。

当面は、常勤の産婦人科医師1名、小児科医師の1名に助産師10名の少数精鋭の体制で対応するため、受け入れについては制限を設けており、あらかじめハイリスクと判断した妊婦、たとえば糖尿病や心臓病合併妊婦などは、複数の産婦人科医師がいて、赤ちゃんも24時間みる体制の整った病院をお願いすることになります。

加西病院マタニティセンターの理念は『安全にお産ができ、赤ちゃんとお母さんが安心して家族と共に快適に過ごせる』ことです。従事する職員一丸となって、温かくお世話しますので、どうぞご利用ください。

また、多くの署名活動に参加していただいた加西市連合婦人会をはじめ、市民の皆さまの熱意とご協力によりようやくオープンにこぎつけることができたことと感謝しています。新しく生まれ変わった加西病院マタニティセンターでぜひ、あなた自身の望むすばらしいお産を体験してください。（産科一同）



○ **加西病院マタニティセンターで受け入れできる分娩** ○

- ・37週～41週の満期産
- ・妊娠経過に母子共に異常が見られない
- ・きちんと定期検診を受けている
- ・検診時に指導されたことを実行できる方

※里帰り出産は34週には受診していただいた方が安全です。必ず紹介状をお持ちください。

問合先：産婦人科外来またはマタニティセンター ☎④ 2200（代）

MERRY CHRISTMAS **もうすぐ混み合う時期です。早めのご予約を！** 免許で広がるあなたの世界 私達がしっかりお手伝いします。初心運転者教育や高齢者講習などを通して地域の交通安全の推進に貢献して参ります。

○ご希望（時間・場所）に応じた送迎。○ローンの利用もできます。○託児室あります。

スタッフ紹介コーナー（毎月連載）
●北山 慎一郎 “憧れの自動車免許取得” 取得すると同時に社会的責任を持つことになり、これから交通社会の一員として自覚と責任を持ったドライバーになっていただくため、時には厳しく指導することもあります。取得後はきっとステキなドライブを楽しんでもらえると思います。一緒に頑張らしましょう。

加西市殿原町620 フリーダイヤル ☎0120-81-8289
姉妹校 加東自動車教習所 加東市松沢字依藤761-5 フリーダイヤル ☎0120-46-1284